

(仮称) 銚子ウィンドファームリプレース事業に係る環境影響評価方法書
委員から寄せられた質疑・意見に対する事業者の見解

令和 6 年 1 1 月 1 5 日委員会資料
コスモエコパワー株式会社

No.	項目	細目	質疑・意見の概要	事業者の見解
1	事業計画	送電ケーブル	(10月18日現地調査での質疑・意見) 既設風力発電機の地下のケーブルは、どのようなルートでどこに埋まっているのか。その深さも教えていただきたい。	(10月18日現地調査での回答) 各風力発電機から個別にケーブルが出ており、その後、道路地下で集約し、変電所に繋がります。 (追加回答) 地下のケーブルは約1~1.5mの深さに埋設されています。
2	事業計画	既設設備	(10月18日現地調査での質疑・意見) 送電線はどの位置に配置されているのか。 (現地にて)	(10月18日現地調査での回答) 各風力発電機から地下の配線ピットを通り、農道の下を經由し、広域農道にて合流の後、変電所に接続されています。
3	事業計画	送電ケーブル	(10月18日現地調査での質疑・意見) 既設風力発電機のケーブルは再利用するのか。	(10月18日現地調査での回答) 再利用の可否については現在確認中です。可能であれば再利用したいと考えています。
4	事業計画	基礎杭	(10月18日現地調査での質疑・意見) 既設の風力発電機の基礎杭は何メートルの深さまで入っているのか。	(追加回答) 各号機により異なりますが、既存の風力発電機の基礎杭約14本であり、約15mの深さまで入っています。
5	事業計画	基礎杭	(10月18日現地調査での質疑・意見) リプレース後の基礎杭は何本設置し、何メートルの深さまで入るのか。また、杭を打つのに必要な打設回数や日数については算出しているのか。	(10月18日現地調査での回答) 現段階においてお示しすることはできませんが、ボーリング調査を今後実施する予定であるため、その調査結果に応じて杭の打ち方について検討していく予定です。

No.	項目	細目	質疑・意見の概要	事業者の見解
6	事業計画	基礎杭	(10月18日現地調査での質疑・意見) 既設の風力発電機のケーソン基礎はどのような材質を使用しているのか。また、コンクリートを使用している場合、腐食が進んでいるのか。	(10月18日現地調査での回答) 主にコンクリートを使用しています。腐食については、国の風力発電機の設計指針に基づき設計を実施し、審査が行われているため、問題ないと考えています。
7	事業計画	事業方針	(10月18日現地調査での質疑・意見) 波崎のウィンドファームは廃止なのか。再生可能エネルギーが推進されている世の中で風車を減らしていく事情があるのか。	(10月18日現地調査での回答) 波崎のウィンドファームは別事業になりますが、現在リプレース事業を実施している最中であり、今後も再生可能エネルギー事業について推進していきます。
8	事業計画	対象事業の目的	(10月18日現地調査での質疑・意見) 事業の目的に地域の活性化への貢献とあるが具体的にどのようなことを考えているのか。	(10月18日現地調査での回答) 工事では地元の業者に委託することを基本とし、メンテナンス等を実施できる地元のスタッフの育成・雇用も実施する予定です。
9	事業計画	既設設備	(10月18日現地調査での質疑・意見) 外観からまだリプレースをするほどでは無いように見える。(現地にて)	(10月18日現地調査での回答) 耐用年数が20年となっており、既に17年を経過している事から老朽化が進行しています。
10	対象事業実施区域及びその周囲の概況	地形・地質	(10月18日現地調査での質疑・意見) 対象事業実施区域とその周辺の地質は、名洗層、飯岡層その上に香取層、関東ロームが乗っており、地質構造と地下水や帯水層との関係は重要である。既設事業時に得られたデータがあるはずであり、ケーソンも既設より大きくなる見込みであるのであれば、是非図書に載せてほしい。	(10月18日現地調査での回答) 方法書には記載していませんが、今後検討し、必要に応じて準備書に記載します。

No.	項目	細目	質疑・意見の概要	事業者の見解
11	対象事業実施区域及びその周囲の概況	地形・地質	<p>(10月18日現地調査での質疑・意見)</p> <p>基盤の上の砂は海の砂であるため、不均一な構造を持っていると思われる。また、高田川は硝酸性窒素の汚染が千葉県で一位であり、水の循環が速い場所である。その水循環のスピードは地質構造にあるかもしれない。そのため、杭や基礎の打設の深さによっては、地下水の水みちに影響がある可能性がある。影響を低減するために、地質の記載について表層の地質のみの記載ではなく、縦断方向の地質構造も記載してはどうか。文献等を調べるとすぐにわかる情報であり、環境アセスメントに有益な情報でもある。</p>	<p>(10月18日現地調査での回答)</p> <p>今後の事業計画の内容により検討し、必要に応じて準備書に記載します。</p>
12	対象事業実施区域及びその周囲の概況	地形・地質	<p>(10月18日現地調査での質疑・意見)</p> <p>深層地質については必ず既存データがあり、基礎や杭の打設の深度によっては影響がある可能性があるため、情報を収集すること。</p>	<p>(10月18日現地調査での回答)</p> <p>今後の事業計画の内容により検討し、必要に応じて準備書に記載します。</p>
13	対象事業実施区域及びその周囲の概況	地形・地質	<p>(10月18日現地調査での質疑・意見)</p> <p>地質の状況について、環境アセスメントの図書作成では重要な地形・地質に基づいて整理をすることがルールとなっており、これが制度となっているので、今回の図書地質についての取りまとめ方はこれで問題ない。一方で他の委員からご指摘があった通り、深層地質については特殊な地域特性がある地域であるため、ボーリング調査により地域特性を考慮した調査と取りまとめの実施を検討していただきたい。</p>	<p>10月18日現地調査での回答)</p> <p>深層地質の状況について情報を収集し、ボーリングデータ含め必要に応じて準備書に記載します。</p>

No.	項目	細目	質疑・意見の概要	事業者の見解
14	調査、予測及び評価の手法	動物（哺乳類・鳥類）	（10月18日現地調査での質疑・意見） 既設の風力発電機では鳥類の衝突状況の調査は実施されているのか。	（10月18日現地調査での回答） 既設の風力発電機建立後、モニタリング調査を1年間毎週1回の頻度で実施しております。調査の結果、当該期間中死骸は発見されませんでした。
15	調査、予測及び評価の手法	動物（哺乳類・鳥類）	（10月18日現地調査での質疑・意見） 死骸が発見されなかったのが、実際に衝突がなかったのか、それとも衝突があったがスカベンジャーの持ち去りなのか分からないと思うので、その辺がわかるような調査手法が望ましい。	（10月18日現地調査での回答） ご指摘を参考とし、今後調査手法について検討していきます。 （追加回答） スカベンジャーによる持ち去りについては、鳥類の死骸もしくはこれに類する素材の入手が可能である場合、死骸調査範囲内の任意の場所にその死骸等をセンサーカメラの前に設置し、スカベンジャーの有無及び持ち去られるまでの期間を調査する予定です。調査箇所は、入手できる死骸等の数にもよりますが、可能な限り調査を実施する全ての既設風力発電機と同じ7地点で検討しております。実施頻度につきましても死骸の数にもよりますが、四季に1回程度を予定しております。得られたデータの取り扱いについては、今後、専門家等にヒアリングを行い決定致します。 調査地点：7地点 調査時期：四季に各1回

No.	項目	細目	質疑・意見の概要	事業者の見解
16	調査、予測及び評価の手法	動物（哺乳類・鳥類）	（10月18日現地調査での質疑・意見） リプレース風車の供用後はどれくらいの頻度でどういった調査を実施する予定なのか。	（10月18日現地調査での回答） 生息する鳥類について調査を実施して、どの程度衝突するのか予測を実施した上で事後調査として死骸調査を実施する予定です。具体的な調査の手法は、法アセスの事例や論文等を考慮し、今後検討していきたいと考えています。 （追加回答） 事前の死骸調査の結果によりますが、施設供用後1年間の実施を想定しております。調査手法、実施頻度については、前後比較を考慮し事前の死骸調査手法を踏襲します。 調査地点：3～5地点 調査時期：1年間（各月2回（1日間）、連続した2日間で実施）
17	調査、予測及び評価の手法	動物（鳥類）	（10月18日現地調査での質疑・意見） 利根川の対岸の波崎ではコウノトリが生息している。銚子方面にも飛来している可能性があるため、注意して調査を実施すること。	（10月18日現地調査での回答） 今後の調査では、コウノトリにも留意し実施致します。